

# さくらそう通信

## ひるぜん 岡山県蒜山高原のサクラソウ保護の現状と課題 — 重井薬用植物園（倉敷市）の保全活動支援例から —

ここ数年、サクラソウをシンボルとする自治体の紹介を連載してきましたが、今回は自治体ではなく、民間の医療法人が運営する重井薬用植物園長の片岡博行さんに、岡山県の蒜山高原を舞台にしたサクラソウの保全活動の様子を紹介していただきました。

☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★

重井薬用植物園は、倉敷の自然を守る会などの自然保護活動に力を注いだ前理事長の重井博さんが主導し、昭和39年から整備が始められました。園内では岡山県内に自生する樹木や草本類を多数植栽していて、植物だけでなく野鳥や昆虫の楽園にもなっています。園内で採取した余剰種子を全国に配布していますが、特にオキナグサの種子の配布は大きな反響を呼んだそうです。



蒜山高原のサクラソウ

### 1.岡山県の地形と気候の概要

岡山県の地形は、南から北に行くほど標高が高くなっており、平野と丘陵地が広がる南部沿岸地域は、年間降水量が1,200mmを切るような、温暖ではありますが乾燥した気候の土地柄で、岡山県のキャッチフレーズでもある「晴れの国」とはこの降水量の少なさが由来となっています。

県中部には標高300～600m、年間降水量1,400～1,500mmの吉備高原と呼ばれる高原状丘陵地帯が広がります。さらに県北部には標高1,000m前後の脊梁山地

(中国山地)が東西に横たわっています。北部山地では年間降水量は2,200mmにも達し、冬季には積雪が1mを超えることが普通の地域です。

### 2.岡山県のサクラソウの現状

岡山県のサクラソウは、吉備高原のやや西部から中国山地の脊梁部にかけて点々と分布していますが、そのほとんどの自生地で個体群の存続が危ぶまれている状況です。特に、県北部の蒜山高原とよばれる地域以外の自生地は壊滅的な状況となっており、開発や植生遷移など生

育環境の変化によって消滅してしまった自生地も少なくないようです。

岡山県では、2003年に初めて発行された岡山県版レッドデータブックにおいて、サクラソウを最もランクの高い「絶滅危惧種」とし（2009年発行の改訂版では「絶滅危惧Ⅰ類」）、2009年4月には「岡山県希少野生動植物保護条例」の指定種に選定し、野生個体（種子を含む）の採取や損傷に対して罰則を設け、巡視員（市民によるボランティア）による自生地の巡視など、サクラソウの保護に取り組み始めています。

### 3. 蒜山高原のサクラソウの現状と保護への課題

岡山県真庭市の蒜山地域は、標高500～800m前後の中国山地の最上部に広がる高原地域で、蒜山高原と呼ばれています。この地域は、岡山県内で最大のサクラソウ生育地とされていますが、実際には、大規模な群落はほとんどなく、小面積の集団が点在する状態です。

「希少野生動植物保護条例」の指定検討段階で、岡山県がこれらの集団についてDNAレベルの調査を行ったところ、興味深いことに、蒜山地域のサクラソウは大きく分けて3グループに分けられることが明らかになりました。これらのグループは、重なり合う部分はあるものの、異なった地域に分布しており、人為的に他地域のものが持ち込まれたのではなく、火山の噴火による地形の変化などに対応して、周辺地域から時期を違えて分布を拡大してきたものが由来であろう、つまり蒜山地域の地史を反映しているのではないかと推測されています。

蒜山地域では現在、真庭市の自然公園「津黒いきものふれあいの里」や地元市民団体「蒜山ガイドクラブ」等の地元と岡山県自然保護センター、重井薬用植物園などが連携し、DNAの異なるグループを混ぜてしまうようなことがないように増殖や移植活動を分担しつつ、サクラソウの保護意識啓発のための観察会を行っています。



増殖したサクラソウの移植



火入れ草地でのサクラソウ観察会

また、この地域は、昔から伝統的に「山焼き（火入れ）」を行ってきた地域でもあり、山焼きによって維持されて来た半自然草地がサクラソウの自生地ともなっています。同時に一部のサクラソウ自生地には、全国でも生息地がほとんどなくなってしまった、「フサヒゲルリカミキリ」（環境省RL（2007）：絶滅危惧Ⅰ類）の岡山県唯一の生息地ともなっており、現在は地元住民によって行われて



フサヒゲルリカミキリ

いる半自然草地の維持（＝山焼きの継続）をいかに続けていくか、山焼きがされなくなってしまったサクラソウ自生地の環境をいかにして維持していくのが、課題が山積している状況ですが、岡山県自然保護センターのボランティアなど地域外の市民が地元住民とともに山焼きに参加するなど、徐々にではありますが、保護活動の輪が広がっています。



蒜山地域での山焼きの様子